

文献番号	発表年 (治験期間)	筆頭者名	国名	病院名	症例人数	年齢	既往歴、 両側人数	総注 入回数	平均 実施 回数	使用薬剤 名	使用量	注入混合物	麻酔	手技	初回排液 量ml	初回有 効率	最終有 効率	効果判定 時期（経 過観察期 間）	合併症	無効例人数 （顛末）	効果機序
1	1988 (1986年 1月-12 月)	増田富 士男	Japan	慈恵医大 第三病院	11	30-74歳 (内6例 は60歳以 上)	未治療6 人、穿刺 吸引5 人。	14回	1.27	塩酸ドキ シサイク リンor塩 酸ミノサ イクリン (例数の 区分不記 載)	50～ 100mg	生食水5ml or 1%リド カイン5ml	無麻酔8 例、硬膜外 麻酔3例 (経尿道的 前立腺摘除 も実施)	21G注射 針、貯留液 を可及的に 排液後に薬 剤注入。	平均99ml (16～ 380)	7/11≒ 0.64	9/11≒ 0.82	6か月～1 年6カ月	局所の疼痛 (無麻酔8 人、11回 中、リドカ イン混注で は1/9回, 生食だけは 2/2回あり)	2人：一人 は手術へ、 一人は他病 合併で中 断。	薬剤のpH が2～3.5と 酸性である ことか。 (他の文献 8では否定 されてい る)
2	1993 (1986- 1989)	矢野 明	Japan	厚生連広 島総合病 院	9	35-76歳	9人全員 単純穿刺 吸引歴あり	12回	1.33	塩酸ミノ サイクリ ン(点滴 静注用)	100mg	生食水4ml + 1%リド カイン1ml	無麻酔	21Gエラス ター針、貯 留液を可及 的に排液後 に薬剤注 入。	平均 103.8ml (20- 180)	7/9≒ 0.78	8/9≒ 0.89	6か月後 (平均 34.5カ 月)	疼痛6回、 血腫1回、 発赤1回。	1人(疼痛 忌避で再度 の硬化療法 は、フェ ノール使用 へ)	記載なし
2	1993 (1990- 1991)	矢野 明	Japan	厚生連広 島総合病 院	7	35-76歳	先にミノ マイシン 硬化療法 1人	12回	1.71	phenol フェノール 2.5% 液	吸引液 50ml未満 の人は 5ml, 50ml 以上は 10ml	無し	無麻酔	21Gエラス ター針、貯 留液を可及 的に排液後 に薬剤注 入。	平均 110.4ml (40- 150)	3/7≒ 0.43	6/7≒ 0.86	6か月後 (平均 24.4カ 月)	疼痛1回、 搔痒感1 回。	1人(手術 希望)	記載なし
3	1994	Yamam oto M	Japan	名古屋大 学医学部 病院	20	62-82歳 (平均 70.7)	一側の み。合併 症なし。	22回	1.1	OK-432 (ピシバ ニール)	吸引液 100ml未 満は2KE, 101-200 は3KE, 201-300 は4KE	生食水4、 6, 8ml,	排液後嚢腫 内膜表面麻 酔：0.5% マーカイン 5ml単独注 入、5分待 機。	16Gアンギ オカテーテ ル、可及的 に排液。 OK-432注 入後は陰嚢 マッサージ。 陰嚢サ ポート着用。	平均 200ml(78 -380)	18/20 = 0.9	20/20 = 1	(2-13カ 月、中央 値6カ 月)	15人で2-3 日間の軽度 発熱。2人 で7日間の 一時的な陰 嚢腫大。疼 痛を注射直 後に経験し た人は無し。	1か月後、3 か月後に 各々1例の 再発があっ たが、再度 注入治療で 完治した。	異物炎症反 応。この反 応はOK- 432に特異 的なもので はない。

4	2011 (2003.A pril.- 2007.Jun e.)	Chen Jeo Shan	Brazil	サンパウ ロ大学病 院	69	28-86歳 (平均 61) 13人に既 往歴あり。	(54人は 一側水 腫、11人 は両側水 腫、3人 は同側に 水腫と精 液瘤、1 人は同側 に2個の 水腫) 合 計 84 カ 所。	114回	1.35	エチルア ルコール 99.5%	吸引量の 10%、最 大50ml	無し	穿刺部2% リドカイン 局麻。排液 後嚢腫内 膜表面麻酔 ：吸引量の 1%の2%リ ドカイン、 最大10ml	16Gアング イオカテー テル。抜去 直後、穿刺 部位を5分間 圧迫。陰嚢 サポート着 用。抗生剤 投与なし。	平均 279.82ml (27- 1145)	不明	82/ 84 ≒0.98	1,3,6,12 か月後、 再注射の 都度。9- 80か月 (中央値 43か月)	注入直後疼 痛12人/69 人(鎮痛剤 の使用で 20-30分後 に消失)。 16人/69人 に1-3日後 の疼痛あり。 22人で精 液検査を 実施して、 有意な変化 なし	2人(詳細不 明)	不記載
5	2015 (2005- 2012)	John J.Franc is	USA	シカゴR ush大学 医療セン ター	29	平均52.8 歳	26人は一 側のみ、 3人は両 側性、合 計 32 カ所 (すべて 単嚢胞性)	36回	1.24	塩酸ドキ シサイクリ ン(注射用 テトラサイ クリンが入 手不能にな ったので)	200mg or 400mg (吸引 500ml以 上)	0.5%プリ バカイン (=マーカ イン) 10ml	spermatic cord block(精索 内神経ブ ロック) 0.5%プリ バカイン 10ml	16Gアング イオカテー テル。抜去 直後1分間陰 嚢マッサージ	不記載	27/ 32 ≒0.84	28/ 32 ≒0.88	平均20.8 か月	疼痛3人 (2-3日 間)	4人(内1人 は1回実施 後、他の3 人は2回とも 非治癒で手術 へ。)	ドキシサイ クリンが中 皮細胞・繊維 芽細胞から繊維 素やコラーゲン の蓄積を誘発し ている。
6	2015(200 9.May- 2012.May)	Jayakar thik Y	India	Mahatma Gandhi Medical College and Research Institute	30	19歳- x(平均36 歳)	対照として、 別に30人の手術 例を調査した。	44回	1.47	フェノール 3%液 phenol	吸引量の 10% (50ml以下 :5ml, 51- 200:10, 201- 400:15, 401以上: 20)	無し	穿刺部皮膚 局所麻酔	テフロン 針、完全排 液。	0-50ml:4 人,51- 100:12 人,101- 150:10 人,150- 200:4人	21/30 =0.7	30/30 =1	6週ごと 診察、	疼痛18人	初回治療不 成功は9人 (その内、 4人は合計2 回、5人は3 回硬化療法 して治療。)	不記載

7	2015 (2010.Jan.- 2011.Aug.)	Osman Musa	India	Era Lucknow Medical College	57	18歳-65 歳（平均 35.72± 13.18）	全員既往 歴無し。 51人は1 側、6人 は両側 （合計63 カ所）	84回	1.33	3%STDS (Sodium Tetradecyl Sulfate) = fibro vein	吸引量200 以下： 2ml、 201- 300：3, 301以上： 4ml。最大 4ml.	無し	不明	20G静脈カ テーテル、 可及的排液 後にSTDS を注入。全 員に ciprofloxac in500mg2 回/5日。	50ml以下 9人、51- 100： 18, 101- 150： 10, 151- 200： 12, 200 以上：8	36/ 57 ≒0.63	48/ 57 ≒0.84	1週後、1 か月後、 3か月 後、6か 月後、お よび合併 症発症時	疼痛例無 し、全身発 赤無し。	1か月後で 初回治療不 成功は21人 （その内、 12人は再注 入で治癒、 9人は再注 入で治癒せ ず、手術を 勧告し た。）	Wikipediaで は「界面活 性剤である ため、静脈 壁の細胞内 の脂質分子 に作用し炎 症性破壊と 血栓形成を 起こす」 と。（この 薬剤は日本 では非販 売）
---	-----------------------------------	---------------	-------	--------------------------------------	----	------------------------------------	--	-----	------	--	---	----	----	---	---	------------------------	------------------------	--	-----------------------	---	--